

令和7年度

相生小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問・指示により、児童の思考を深める授業の実践
- 主体的に学習に取り組み、新たな課題を見つけ、学び続けようとする児童の育成

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や研究授業(全校・メンター等)、教員からの報告等、様々な機会を捉えて取り組み状況について把握する。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○基礎的・基本的な知識・技能が定着している児童が多い。</p> <p>○真面目に学習に取り組む児童が多い。</p> <p>●知識・技能の定着については、個人差が大きい。</p> <p>●初見の文章や長文を読むことに苦手意識を持っている児童が多い。</p>	<p>・既習の知識と関連付けながら、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。</p> <p>・身に付けた知識・技能を、他の学習や生活の場面で活用することができる。</p>	<p>・プリントやタブレットドリルなど、児童の実態に合った教材を準備し、基礎的・基本的な学習内容を、繰り返し復習できるようにする。</p> <p>・フラッシュカードや百玉そろばん等を使い、授業の最初に前時までの復習をする。</p> <p>・こども新聞や学校図書を授業や宿題等で活用し、様々な文章を読む機会を意図的に設定する。</p>	<p>・朝活の時間に、個々に応じた復習をする。(タブレット、学力向上に関するプリントの活用など)</p> <p>・授業の導入で、既習内容の復習をする。(フラッシュカードや小プリント、クイズなど)</p> <p>・こども新聞を活用し、語彙を増やし、様々な文の構成について学ぶ機会を設定する。</p>	<p>・朝活の時間を延ばしたことで、集中して取り組むことができるようになり、充実した学習ができた。</p> <p>・百玉そろばんや漢字小テスト等で復習を行い、基礎的な知識が定着できた児童が多い。</p> <p>・こども新聞を活用し、鳴潮の視写や、意味の分からない言葉の意味調べをすることで、国語辞典の使い方にも慣れてきた。</p>	<p>・既習内容の復習にくり返し取り組むことができるよう、タブレットや学力向上に関するプリント等の活用方法をさらに工夫する。</p> <p>・各学年に応じたこども新聞の活用方法を考え、初見の文章を読む機会や、語彙や文の構成について学ぶ機会を増やしていく。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○理由や根拠を明確にして、自分の意見や考えを発表し、学級で話合することができる。</p> <p>●語彙が少なく、生活の中で自分の思いや意見を言葉で表現することが苦手な児童がいる。</p> <p>●相手の意見を受けて、つなげたりまとめたりする力が十分身に付いていない。</p>	<p>・語彙を増やし、自分の思いや考えをより正しく相手に伝えることができる。</p> <p>・よりよい判断をするために、自分に必要な情報を自分で選り出すことができる。</p> <p>・自分と相手の意見を比較したりまとめたりしながら、建設的に話合することができる。</p>	<p>・児童の思考を深めるため、教師の発問や指示の言葉を精選する。より深く考えたり、別の視点を加えたりするために、「意味ある問い直し」をする。</p> <p>・教科書や資料集等から必要な情報を読み取る活動を、授業の中に必ず取り入れる。</p> <p>・教科の授業や学級会の時間に、意見を比較したり関連付けたりして話し合う具体的な方法を指導する。</p>	<p>・教科書の図・表・写真・グラフ等の資料を読み取る活動を重視する。(資料集・地図帳・辞書などの活用)</p> <p>・話し方のモデル(話形)を掲示し、比較したり関連付けたりしながら話合することを意識させる。</p>	<p>・教科の学習だけでなく、学級会や集会等の場面でも、自分の意見を理由付けて発表できる児童が増えた。</p> <p>・図や写真、グラフ等の読み取りをするときには、指で押さえさせてから、どこをどのように読み取るか確認させることで、情報を読み取る活動に慣れつつある。</p> <p>・自分と友達の考えを比較したり、類似点を見つけたりしながら話合することができる児童が増えてきた。話を聞こうとする態度にも高まりが見られた。</p>	<p>・児童の思考を深めるため、次年度も教師の発問や指示の言葉を精選していく。児童の発表の仕方が挙手制に偏らないように、指名の仕方のバリエーションを増やす。</p> <p>・教科の学習や話し合い活動では、発表する児童が固定化しがちなので、少人数で話合ったり発表し合ったりできる場を設定し、全ての児童の表現力向上に努める。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○決められた課題に真面目に取り組む児童が多い。</p> <p>○タブレットを活用し、自分の知りたいことを主体的に調べることができる。</p> <p>●計画的に自主学習に取り組めていない児童がいる。</p> <p>●家庭での学習時間や読書時間が十分取れていない児童がいる。</p>	<p>・自分に必要な課題を設定し、計画的に家庭学習に取り組むことができる。</p> <p>・自分に必要な学習を選択し、積極的に自主学習に取り組むことができる。</p> <p>・学習した内容に関連する本や、自分の興味、関心がある内容の本を手に取り、読書に親しむことができる。</p>	<p>・学年だよりを使って学習の様子を伝えたり、参観日や個人懇談等の機会に、自主学習の取組をってもらう場を設定したりすることで、家庭での取組を啓発する。</p> <p>・学級内で互いの学び方を共有し合う機会(教室への掲示、共有ノート等)を設け、児童が自分の学びに生かすことができるようにする。</p> <p>・学校図書の貸し出しを積極的に行い、週末には並行読書に取り組ませる。</p>	<p>・学習の振り返りで、新たに持った疑問や次に向けての目標なども書き留めることで、自己調整力の育成を図る。</p> <p>・朝活での読書の時間を大切に。事前(事前に本を選んでおく、立ち歩かず集中して読む など)</p> <p>・週末読書をするだけでなく、感想や新しく知ったことをアウトプットする場を設定する。(朝の会で紹介、日記に書く、タブレットに入力 など)</p>	<p>・自主学習ノートのコピーを廊下に掲示したり、学年だよりや学級で紹介したりすることで、自分の興味ある分野だけでなく、様々な内容の学習に挑戦する児童が増えた。</p> <p>・朝活の時間が長くなったことで、じっくりと本を読むことができるようになってきた。</p>	<p>・自主学習の取り組み方について、教職員全体で共通理解を図り、児童の意欲が高まるよう工夫する。</p> <p>・朝活でじっくりと読書ができる時間を設定する。さらに、隙間時間にも読書をするよう取り組む。</p> <p>・週末の並行読書への取組が不十分だったので、家庭での読書習慣に結びつくような取り組み方を検討する。</p> <p>・様々な本に興味をもてるように、図書室の利用の仕方や学級文庫の整備の仕方を工夫する。</p>